



古今

能詩
類歌聲玉集

夏



能辨古今類歌厚玉集

夏之部

四月	一	初夜	三	初夜	四	初夜	五	初夜	六	初夜	七	初夜	八	初夜	九	初夜	十	初夜	十一	初夜	十二	
初夜	一	初夜	二	初夜	三	初夜	四	初夜	五	初夜	六	初夜	七	初夜	八	初夜	九	初夜	十	初夜	十一	初夜
初夜	一	初夜	二	初夜	三	初夜	四	初夜	五	初夜	六	初夜	七	初夜	八	初夜	九	初夜	十	初夜	十一	初夜
初夜	一	初夜	二	初夜	三	初夜	四	初夜	五	初夜	六	初夜	七	初夜	八	初夜	九	初夜	十	初夜	十一	初夜



桐の花	十二	桐の花	十三	桐の花	十三
栗の花	十三	桐の花	十三	桐の花	十三
常盤木の花	十四	桐の花	十四	桐の花	十四
竹の花	十五	桐の花	十六	桐の花	十六
夏木の花	十七	桐の花	十七	桐の花	十七
筆	十八	桐の花	十九	桐の花	十九
杜鵑	二十	桐の花	二十二	桐の花	二十三
古名雀	廿四	桐の花	廿五	桐の花	廿五
鶯	廿六	桐の花	廿六	桐の花	廿六
改作	廿六	桐の花	廿七	桐の花	廿八
陸	廿九	桐の花	廿九	桐の花	廿九
油	三十	桐の花	三十	桐の花	三十

改作	廿三	通鴨	廿三	鶉	廿三
鶉	廿四	鶉	廿四	鶉	廿五
鶉	廿五	鶉	廿五	鶉	廿六
鶉	廿六	鶉	廿六	鶉	廿七
鶉	廿七	鶉	廿七	鶉	廿八
鶉	廿八	鶉	廿八	鶉	廿九
鶉	廿九	鶉	廿九	鶉	三十
鶉	三十	鶉	三十	鶉	三十一

合款	四十七	山振子	四十七	青梅	四十七	栎	四十七
菜	四十八	松福	四十八	南天	四十八	青竹	四十八
葛蒲	四十八	花葛蒲	四十九	苦蕒	四十九	海	五十
赤芍	五十	藤の	五十	藤	五十	藤	五十
菱花	五十	川	五十	葛菜	五十一	百合	五十一
根百合	五十二	紫陽	五十二	紫陽	五十二	忘州	五十二
鉄線	五十二	石葛	五十二	夏	五十二	紅	五十二
酸漿	五十二	屏耳	五十三	瓜	五十三	水	五十三
練	五十四	花	五十四	浮	五十四	桐	五十四
鳧	五十五	菘	五十五	火	五十五	照	五十六
夏	五十六	夏	五十六	夏	五十七	夏	五十七
六月	五十七	水	五十七	水	五十七	水	五十七

水餅	辛八	夏	辛八	川	辛八	第	五十八
海	五十八	日	五十八	日	五十八	暑	五十九
土	五十九	南	六十	虫	六十	豆	六十
夏	六十	汗	六十	汗	六十	家	六十
風	六十一	夏	六十一	納	六十三	原	六十四
雪	六十五	白	六十六	水	六十七	雨	六十七
信	六十八	晒	六十九	布	六十九	鼻	六十九
籠	六十九	巾	六十九	蓮	七十	蒲	七十一
白	七十一	夕	七十一	豆	七十二	子	七十二
眼	七十三	重	七十四	藤	七十四	物	七十四
綿	七十四	紫	七十五	藍	七十五	山	七十五
青	七十五	麻	七十五	麻	七十五	青	七十五

青芦	七十五	うのふ州	七十六	五松子	七十六	蘭花	七十六
所	七十六	鳥所子	七十六	茄子	七十六	幼葉所	七十六
南大豆	七十七	豆のち	七十七	梅子	七十七	水版	七十七
葛	七十七	おの粉	七十七	心子	七十七	一夜酒	七十八
仲麻	七十八	海月取	七十八	大虫	七十八	一夜鏡	七十八
夜書	七十八	夏百日	七十八	淨後	七十八	形代	七十九
川社	七十九	青蹄	七十九	夏神楽	八十	夏蹄	八十
秋近	八十	五深	八十一	夏巻	八十一	夏昆影	八十二

約二百字二款余

能譜古今類歌厚玉集

小篔庵確嶺撰

槁梁左々抄

春山文樵合

夏之部

四月

之性まをまきしハ控一四月ハ
 葛三
 長翠
 半月
 文帯
 蓬交
 探響
 虚白

出らもくしねのまきあゝ吹せあり
 留るをせむるまのもしらふよ名く
 眼のあまうららむせあり名く
 更なるまうららむせあり名く
 岩まうのほ母討ふ日あり名く
 あらもくしねのまきあゝ吹せあり
 魚まけすあまひつり日や名く
 まくれまの日はほをせあらもく
 あらもくしねのまきあゝ吹せあり
 ね風もくしねのまきあゝ吹せあり
 名くしねのまきあゝ吹せあり
 あらもくしねのまきあゝ吹せあり

卜 早
 尾 村
 菊 雄
 完 鷗
 加 法
 蓬 交
 祖 風
 龜 成
 樂 山
 観 魚
 六 槐
 祖 郷

二五二

初 給

旅せんやろくをまつて文衣
 夜ぬるや形を給給の文衣
 山里や 雲の降りるをよるもく
 振舞や 陣のあつるをよるもく
 修徳して不二をまつて初給
 初給 贈りつる雲もあつるも
 うつらふもまつて初給
 上野までけしき産りなむ初給
 初給 へし人子別れまつて初給

十時庵を憐む

せめて庵の給り別けし本意
 為給り馬集り青 給り時

如 交
 桂 月 女
 椿 州
 碓 嶺
 長 翠
 志 犬
 連 志
 久 雄
 三 彦
 全

給

古 拾

昔鳥の摺解よまきり此拾中
 一 泊を新し舞よありぬ拾中
 晴しやゆい舞のふりしと拾中
 拾着まのまゆふとふと拾中
 二日たてまよとて拾中拾中
 立ちくも居ふふまき拾中
 母のふみ 結まてまよき拾中
 まるんや 危の拾中あさうと
 朝日もまよふて着別拾中拾中
 昔くまふ舞うけし拾中拾中
 望日を拾中忘きん古拾
 夏よせれぬうらを拾中拾中

巢兆 孤村 一耕 胡蝶 梅野 全 成績 五山 千松 玉成 乙貞 幸丸

三

綿 技

月之せん 波摩の拾中古拾
 月之ぬんくくと四月二日
 綿拾中むらぬを思ひぬ
 十日く綿拾中十日こまらぬ
 綿拾中まゆの重なり拾中
 綿拾中舟まゆもまゆ川
 まね 柳ふくまらぬ入
 うつとまゆの世をまゆ人のまゆ
 探ゆゆ 世を人まゆのまゆ
 おおらぬうらつれり夏 衣
 拾起うけしまゆあやま衣
 垣まての風のまゆまゆ衣

五山 白雄 長翠 日人 荷乙 貞雄 春鴻 長翠 全 静雨 薜苑 老霍

明安夜

經手を流の清き浦に
 みる水も思ふにあり
 らし夜や月の影も
 斤もあらわぬ
 琴の音も
 上毛
 二丈一て
 上毛
 横野の
 上毛
 雁子
 上毛

連志 曲江 白水 百丈 琴秋 里川 葎苑 確嶺 長翠 茅丸 竹烟 菊泉

五五

加茂祭

花のあきもあつても
 武州
 ぬるもいぢの
 由誓
 上か茶や
 静雨
 不測と
 犬甫
 加茂の
 梅守
 夕暮も
 桑布
 人をも
 梅守
 雀の
 奇淵

葵

馬のけしき

奇淵

立葵 灌佛 佛生會

夕の露も人さけてあやしく 葵草
 葵ささるや そよよりの 燈もさ 審のあ
 如きは山や まほしき 共よき 葵さ
 馬曳て 歸る 女や ちかしく 葵
 藤さ 影さ 風の吹あり 立葵
 清佛や 門も 出まは 審のあ 涼
 灌佛は 地 時の 走あり 身延山
 日永さ 夕 露も さ 四日 八日 うち
 清佛や 白 挽音を 時 同 士
 清佛や 夕の 山 四日 うち 人の中
 雪のあ 由さる 夕の けり ちや 佛生會

一聯二句

行脚

由誓 連志 丹堂 柴居 武日 白雄 士朗 葛三 連志 凡明 白雄

花御堂

清父の名も おろそ 佛生會
 母の名も 人さけ 佛生會
 蓮根の汁は 花や 佛生會
 こころや 佛の 時さ 佛生會
 ちかしく 雪月さ 佛生會
 夕の 夕に 暮ぬけ 佛生會
 夕の 夕に 生さ 佛生會
 母の 母の 存は 佛生會
 ありさ 花 佛生會
 夕の 夕の 生さ 佛生會
 おろそ 夕の 生さ 佛生會
 九言も 夕の 生さ 佛生會

湖東

信州

相州

全 全 春鴻 雨塘 三彦 清湖 霞月女 惟月女 麥二 東舎 由誓 一瓢

五香水

佛の産湯
花 摘

千團子

御衣祭

筑摩祭

白目草とくまの佛のうらみよき水
跡しとやふらふらあうらも五香あり
大切なり 捨る佛の産湯也
よき摘やふ葉のよきよの書
よき摘や 思へば不二の國の山
よき摘や 捨る人よき 栗田は
子を思ふ深の影やよき子
摘やせし草のよきよき子
捨る摘や 歩むるよき 子よき
御衣は 産湯のよきよき 御衣は
系子とくまのよきよき 御衣は
くまのよきよきを画するよき 御衣は

二三 確嶺
今 静雨
確嶺 左
驕道 九宵
半嶺 護物
確嶺 乙二

七

牡丹

あめりかと思ふぬ影よあけまつり
人の心とてよきよき 鶴もあけまつり
あけまつりよきよき 牡丹よきよき
あけまつりよきよき 牡丹よきよき
牡丹よきよきよきよき 牡丹よきよき
牡丹よきよきよきよき 牡丹よきよき
牡丹よきよきよきよき 牡丹よきよき
牡丹よきよきよきよき 牡丹よきよき
牡丹よきよきよきよき 牡丹よきよき
牡丹よきよきよきよき 牡丹よきよき
牡丹よきよきよきよき 牡丹よきよき

連志 確嶺 葛三 三彦 巢也 升六 蒼嵐 西月 茶静 孚石 連志 芳石

杜若

一輪の菊子庭りの牡丹う那
蒼二つ咲くくく多於牡丹う那
二つ咲くくくく多於牡丹う那
こくあけくく人の出ては牡丹う那
牡丹う那や屏帳の窓よりくく
満ちてくくくくく多於牡丹う那
秋上の牡丹う那や新の月
牡丹う那やおの物客の寺の窓
月田の扇くくくくく多於牡丹う那
さくくくくくくくくく多於牡丹う那
紫くくくくくくくくく多於牡丹う那
人死あぬ時くくくくく多於牡丹う那

信州

乳正
全
雨紅女
史弄
化雄
月桂
茶徑
左之
長翠
全
三十彦
全

八

蒼物くくくくく多於牡丹う那
杜若今咲くくくくく多於牡丹う那
旅く居くくくくく多於牡丹う那
杜若旅を忘るくくくくく多於牡丹う那
度津や一輪くくくくく多於牡丹う那
杜若昔くくくくく多於牡丹う那
夕晴くく床くくくくく多於牡丹う那
交領くく大工くくく多於牡丹う那
太刀持のくくくくく多於牡丹う那
色くくくくく多於牡丹う那
くくくくく多於牡丹う那
くくくくく多於牡丹う那

月居
葛三
蕉雨
蒼虬
西月
梅室
一蕙
荷乙
旬光
字石
五栗

苟藥

羨しくおぼれぬまゝの杜若
又思ふらふ花のついでに
膳まつく島の先へさつきつと
苟薬を畑のうへに
苟薬の影うけのうへに
苟薬の影うけのうへに
一ハ巾旅まゝ人のほめて
一ハ巾睡をなす庵のそ
或る尾崎の寺山志の
垣根もばぬ垣根やを尾の
或る尾崎の寺山志の
る二日とつとまゝなりやきき尾の花

古河

松吹 蘭阜 二三 三千彦 梅野 確嶺 曲江 孚石 孚石 一桃 淇竹

鳶尾花

一八

夏艸

罌粟花

なまや近江の青も青いお
なまの芥も苗圃もつと
なまの芥も苗圃もつと
花のついでに清くも
猪の脊やなまのふひき
菘子の花ついでに
地蔵の影うけのうへに
陽の影うけのうへに
乙卯月の影うけのうへに
演習罌粟や空をきき
社家町の影うけのうへに
作寺の影うけのうへに

三千彦

雨塘 茶静 白雄 蘭更 曉臺 羅城 長翠 三千彦 乙二

三九

麥種

庵をきかき雪降りてり 女子の星
女子散るや 糸くひもも持信
新うけの糸の空さやけいのも
罌粟のまらうかつて居るなり
七時ころの白ひやけいのも
陽しもつててく 終りきりのも
白女子や 空を思遠るはゆめ
かきいしと散るさひ 女子の一寸
けいとうのまき 雲の満る白ひけ
雨とある 雲の出るなり 雲定ま
新らきなり 見郎多り 茶茶を
春鳩や 里のりわい 甲子

巢兆 成美 旬光 茶静 連志 有臺 竹翁 梅曉 三千彦 孚石 可月 春鴻

茶筌草

青さし

春海中山水とめり 砂の跡
神垣中 春の煙 白く
春林中 人騒ぐ 小川の
旭のや 又 遠く寺も 春の
牛阿了 声もちり 春の
青さし 中いこ なるも 山の
春さし 中いこ なるも 山の
田へ 春 廻り 中いこ 春 茨の
鈴も 子 壺の 井戸 中いこ 茨の
畑を 春 一と なる 中いこ 茨の
早 春 一と なる 中いこ 茨の
茨の 春 一と なる 中いこ 茨の

三千彦 一蕙 嵐月 左梁 古狂 可厚 確嶺 一具 荷乙 孚石 易足 文阿

覆盆子

箱根と

蛇覆盆子

蚊屋釣草

苔の花

影うくつるあつりのまをふ花の花
 谷川やまほふ子あまのなるま
 箱根と袖もまのつらむつら
 土の鳥も土用よま一地ま
 手よまてえろ様赤一蛇覆盆子
 始あまほほ釣草の終つら
 算のまやあや釣草のま松よ
 入定の所くく一苔の花
 あまあてあまくくくく苔の花
 ままのまのまのまの苔の花
 そまのまのまのまの苔の花
 沙汰あま月夜よまの苔の花

確嶺 柳居 三十彦 連志 静雨 長秋 鳥醉 乙二 真橋 阿分 左と右

藪椿

楮の花

桐の花

鈴取もあ終るあ一藪椿
 藪椿咲けと咲きつらまのま
 穀上くけらまのまのまの藪椿
 高野のまの初瀬のまの楮の花
 刈楮や穀の楮のまの楮の花
 楮のまの楮のまのまの楮の花
 桐のまのまのまのまの楮の花
 其のまのまのまのまの楮の花
 一甲程まのまのまの楮の花
 まのまのまのまの楮の花
 五と所退てまのまの楮の花
 降まのまのまのまの楮の花

鶏周 田齋 吳翠 巢兆 確嶺 葛三 三十彦 蒼虬 一葉 志丈

丹後

楓の花

葉櫻

櫻子
櫻の實

相吹や小家の外も皆小房
 老ぬまの楓の葉もさくらもさくら
 人志しぬ柳のふゆは早く春
 雲原の山乃葉櫻又えぬる
 葉櫻や柳の籠もさくら世を
 葉櫻や岸原志める津 机
 葉櫻や此の葉もさくら人の心
 葉櫻や常木目之世で庵の友
 葉櫻や世に愛人のおまのり
 葉櫻やほろふとや 桜の葉

碓鳥
 文玉
 左と舟
 大江丸
 長翠
 三千彦
 秋臺
 松葉女
 久雄
 三千彦
 長翠

葉柳

榎の花

柞の花

葉柳乃寺ありてさくらもさくら
 葉柳乃風吹もむく枝ありてさくら
 葉柳乃池ありてさくらもさくら
 葉柳乃舟ありてさくらもさくら
 葉柳乃や榎の葉乃散れはさくら
 見許や榎の葉乃庵の庵
 柞の葉吹や常木目之世で庵の友
 柞の葉吹や世に愛人のおまのり
 柞の葉吹やほろふとや 桜の葉
 柞の葉吹や常木目之世で庵の友
 柞の葉吹や世に愛人のおまのり
 柞の葉吹やほろふとや 桜の葉

白雄
 杵白
 儿明
 鷹山
 白雄
 九霄
 政二
 志丈
 鼎湖
 素行
 五竹
 碓嶺



栗の花

つりもつぬ月のかりや栗の花
あふくとまきくつらや栗の花
をむくひのけりぬる栗の花
海を起しそまのけり栗の花
似てまの並みあり栗の花
こころ程もけり栗の花
旅先や柳のふもを栗の花
西日さし庭のまき栗の花
あふくとまきくつら栗の花
あふくとまきくつら栗の花
あふくとまきくつら栗の花

吉倉

吐丈

三千彦

弥天

孔正

梅野

麓水

左之木

如毛

連志

清湖

左之木

久雄

神の花

櫻櫛の花

初の花

あふくとまきくつら栗の花
あふくとまきくつら栗の花
あふくとまきくつら栗の花
あふくとまきくつら栗の花
あふくとまきくつら栗の花
あふくとまきくつら栗の花
あふくとまきくつら栗の花
あふくとまきくつら栗の花
あふくとまきくつら栗の花
あふくとまきくつら栗の花
あふくとまきくつら栗の花

信淵

久雄

常盤木の落葉

柏叢

若楓

あふくとまきくつら栗の花
あふくとまきくつら栗の花
あふくとまきくつら栗の花
あふくとまきくつら栗の花
あふくとまきくつら栗の花
あふくとまきくつら栗の花
あふくとまきくつら栗の花
あふくとまきくつら栗の花
あふくとまきくつら栗の花
あふくとまきくつら栗の花
あふくとまきくつら栗の花

左之木

長翠

葛三

志丈

如石

保吉

寥松

魯毛

央弄

碓嶺

長翠

三彦

若葉

若柳傳人葉をのまうとゆ
若柳行もやうとせぬ葉色
夜ふりけけきとりのり若柳
鐘供善海人あうと若柳
一ふゆの伝は月と若柳
美しとる庭の葉色や若柳
水子持夕歌え若柳
鶏のつる空をうと若柳
庭を渡る思ふと若柳
嵐して葉あふと若柳
若葉ふりぬ 庭う回ると若柳
ともしつと若柳

湖東

三千彦
全
葛三
蒼虬
涼湖
千古
阿兮
鳥醉
春鴻
几董
三千彦
全

百十四

長翠
元雨
啓山
士朗
巢兆
全
秋舉
静雨
宇石
五栗
涼湖
ともしつと若柳
七つと若柳
一ふゆと若柳
五つと若柳
旅人を送る若柳
傘のしつと若柳
山路来ると若柳
面うと若柳
門あつと若柳
長代と若柳

信州

長翠
元雨
啓山
士朗
巢兆
全
秋舉
静雨
宇石
五栗
涼湖

井上仙の人のまはるむらさき
 橋本乃々々々々々々々々々々々
 乃々々々々々一際星々々々々々上
 々々々々々々々々々々々々々々々々
 一柱々々々々々々々々々々々々々々
 隙々々々々々々々々々々々々々々々
 甘々々々々々々々々々々々々々々々
 傘々々々々々々々々々々々々々々々
 松ゆのぬ〜々々々々々々々々々々々
 もようも実々々々々々々々々々々々
 るは〜〜〜〜〜々々々々々々々々々
 名もき〜ぬの意〜々々々々々々々々

霞羨 易足 林霞 白堂 百丈 乙良 孔正 步丈 里川 桃仙 企 眉鳳

艸の若葉

病葉

茂

眼よつら〜も〜〜〜〜〜々々々々
 道よ男も〜〜〜〜〜々々々々々
 乃々々々々々々々々々々々々々々々
 艸々々々々々々々々々々々々々々々
 病々々々々々々々々々々々々々々々
 病々々々々々々々々々々々々々々々
 わ〜〜〜〜〜々々々々々々々々々々
 病々々々々々々々々々々々々々々々
 七曜乃々々々々々々々々々々々々々
 茂の海〜々々々々々々々々々々々
 舟中の場々々々々々々々々々々々
 乃々々々々々々々々々々々々々々々

如交 芳石 長翠 左々 五調 左梁 袁久 挹芝 春鴻 三千彦 企 長翠

二日月の夜もてしむるあうりか
 意合平別まきく這入あうりか
 佐渡松の雪まきうりかあうりか
 川上の板橋かゝるまきあうりか
 馬の鈴うりあうりか山の鈴うりか
 曲うりあうりかあまきあうりか
 鳴うりあうりか松の鈴うりかあまき
 備留の志んきうりかあうりか
 るの鈴うりか人見えうりか山の鈴うりか
 日れ見えうりかあまきうりか
 空あうりかあまきうりか一本の鈴うりか
 夜初うりあうりか一本の鈴うりか

上雨

長翠 葛三 龜丈 一具 静雨 全 阿兮 杵白 白水 易足 昔丸

夜六

艸茂る

夏木立

木下闇

酒まきうりあまきあうりか
 夜まきうりあまきあうりか
 直まきうりあまきあうりか
 福活もあまきあうりか
 暮あうりあまきあうりか
 一本立身うりあまきあうりか
 家まきうりあまきあうりか
 名まきうりあまきあうりか
 扉あまきあうりか
 一本立人うりあまきあうりか
 重山うりあまきあうりか

孤星 三千彦 号石 左之右 三千彦 全 葛三 成美 五明 茶静 九霄 春鳩

青嵐

ささりふ下駱ささる雲の本木か
馬士の下さめささるささる中
杜きささる影の白のや本をささる
まきささるささるささるささる
人のささるささる中村や青嵐
ささるささる葱のささる吹青嵐
ささるささるささるささるささる
ささるささる中ささるささる
梅ささるささるささるささる
夜ささるささるささるささる
椎の本をささるささるささる
青嵐星のささるささる夜ささる

エチ

長翠 一具 古狂 左さ 白雄 春鴻 葛三 千影 旬光 千花丸 蘭華 赤蓼

夜十七

卯の花

赤ほささるささる美濃路ささる嵐
卯のささる田ささるささる畑のささる
卯のささる中ほささるささる寺れ畑
卯のささるささるささる畑結男さ
卯のささる中鎌研水ささるささる
卯のささるささるささるささるささる
卯のささるささるささるささるささる
卯のささるささるささるささるささる
卯のささるささるささるささるささる
卯のささるささるささるささるささる
卯のささるささるささるささるささる
山吹の垣根ささるささるささる

左さ 三彦 長翠 士朗 荷乙 涼湖 大梅 八朗 麓水 雨紅女 千古 日人

花卯木

箏

山の戸に此の世は外に都知本
奉加呂の修曲のありふり本
暮春の頃てはあねの木の葉は
箏の音の如くは民の心も
竹の音の如くは母の懐も
井の音の如くは鏡も
井の音の如くは田舎
井の音の如くは
井の音の如くは
井の音の如くは
井の音の如くは
井の音の如くは

千隣 胡蝶 確嶺 三千彦 全 全 全 全 全 一具 静雨 古狂

初茄子

井の子に伸る子 踏る月 萩外
井の子を二日つけたり 夢ひ危
世についでに 形や初茄子
老ぬまの物なること 初茄子
初茄子を重なる中 初茄子
佛禮する子の白ひ中 初茄子
夜船の音の如くは 初茄子
夜船の音の如くは 初茄子
夜船の音の如くは 初茄子
夜船の音の如くは 初茄子

葎苑 文耕 蝶夢 春鴻 瑤林女 祖郷 花光女 揚風 雪明 白雄 卓池 可布

初鯉

井の子に伸る子 踏る月 萩外
井の子を二日つけたり 夢ひ危
世についでに 形や初茄子
老ぬまの物なること 初茄子
初茄子を重なる中 初茄子
佛禮する子の白ひ中 初茄子
夜船の音の如くは 初茄子
夜船の音の如くは 初茄子
夜船の音の如くは 初茄子
夜船の音の如くは 初茄子

葎苑 文耕 蝶夢 春鴻 瑤林女 祖郷 花光女 揚風 雪明 白雄 卓池 可布

初時鳥

つらね魚不こ引提て其思ひ
月の出き二夜の中や初鯉
提て外初魚はのそく常々
近江路多々志く思ふまじつ鯉
玉川へ流して見く初鯉
二羽啼くつらねを初時鳥
老ぬまじ初時鳥はつらね
つらね守初時鳥はつらね
白きつらねはつらねつらね
弓取りつらねつらねつらね
都見つらねつらねつらね
岩倉の狂女志せつらね

子規

竹烟 涼湖 松吹 半嶺 五明 樗堂 月居 可布 白雄 蕪村

松代五煙亭

子規平あ城を初時鳥
何鳥も夢あつたけの城を
子規あきやぬあきの岸つらね
不ぬ岸あきも志く提つらね
松の葉子下脈つらねつらね
山里や大根の魚つらねつらね
夕暮るはつらねつらねつらね
蜀魂廿九日も月夜か那
あきつらねつらねつらねつらね

闌更 曉臺 樗良 羅城 蓼太 長翠

杜鵑 けりあめつらう 空ま下り
 紅毛乃子も立そあぬ 時を
 不ぬ 傳 女房 逢平 行まけ
 傍るの 幸の ちりり 子規
 朔日の 月を も 受け 杜宇
 海川の 汐を ちりり 子規
 子規 蒼く 餅を て けり 時を
 唯の ちりり 子規 時を
 次修の 吉里 ちりり 子規
 子規 兼の ちりり 子規
 杜鵑 思ひ けり ちりり 子規
 時の ちりり 子規 夜を けり

長翠
三十彦

、 篇三

、 三

ちりり 子規 見ゆ ちりり 子規
 推の ちりり 子規 ちりり 子規
 空を ちりり 子規 ちりり 子規
 杜鵑 池を ちりり 子規
 時を 待夜の 山を 垣根 ちりり
 ちりり 山中 ちりり 子規
 谷を ちりり 子規 ちりり 子規
 蜀魂 ちりり 子規 ちりり 子規
 空を ちりり 子規 ちりり 子規
 行を ちりり 子規 ちりり 子規
 城の ちりり 子規 ちりり 子規
 青を ちりり 子規 ちりり 子規

全 全 士 全 全 巢 全 全 全 全 全
 朗 董 兆

庵よあまの山時を山よ時
 十日ありて又も一とさし不ぬ降
 村るいも降もささる時を
 子規もさして不月や夜の人
 市燈の度へ度さしあき
 杜宇さるれ月よささる
 空さき世のふいこほれり
 子規十之嶺いりつ越へ
 雪あまはさるるさしあき
 降るも位はささるるささる
 あまささるるささる山の時

士朗
 全
 全
 可都里
 全
 全
 寥松
 米五
 椿堂
 全
 乙二
 全

夜世

りあまの山時を山よ時
 十日ありて又も一とさし不ぬ降
 村るいも降もささる時を
 子規もさして不月や夜の人
 市燈の度へ度さしあき
 杜宇さるれ月よささる
 空さき世のふいこほれり
 子規十之嶺いりつ越へ
 雪あまはさるるさしあき
 降るも位はささるるささる
 あまささるるささる山の時

岳輅
 月居
 錦泉女
 河道
 蕉雨
 乙因
 席杖
 秋攀
 旬光
 荷乙
 負代必
 字石

けりてうらうら子ありて
 高橋の本はららのをを杜能
 けりてうらうら子ありて
 美法子ありてけりて
 子規暮るうらうらのけりて
 ねんをさすのけりて
 川うらうら子ありて
 有ぬきうらうら子ありて
 声ありてうらうら子ありて
 老山のうらうら子ありて
 雀ぬ夜うらうら子ありて
 けりてうらうら子ありて

鬼國 春嶺 全 芦文 鳳石 嘯月 桂月女 春躬 有臺 文我 桃仙 老霍

三三

鶴

留観大奉か月の出たり
 藤原の外き佐野回をけり
 杜宇の實生のけりて
 けりて又まき之せ不ぬ
 橋の多かり月ありて
 子規暮る子他人のけりて
 けりてまきけりて
 けりてうらうら子ありて
 けりてうらうら子ありて
 けりてうらうら子ありて
 けりてうらうら子ありて

梅野 茶徑 花江女 孔正 一耕 首丸 碓月女 葛守 一笑 琴湖 護物

上

文

行々子

一志をり 竹子 柳子 けり子
五月 五月のふらふら せむし けり子
春子 春子 春子 春子 けり子
冬子 冬子 冬子 冬子 けり子
秋子 秋子 秋子 秋子 けり子
夏子 夏子 夏子 夏子 けり子
春子 春子 春子 春子 けり子
冬子 冬子 冬子 冬子 けり子
秋子 秋子 秋子 秋子 けり子
夏子 夏子 夏子 夏子 けり子

吉原権

吉原権 吉原権 吉原権 吉原権

白雄 三彦 長翠 静雨 孚石 孔左 五調 有木 左ふ 鳥醉 葛三

五廿四

睢鳩の巢 鳩の浮巢

吉原の権 吉原の権 吉原の権 吉原の権
吉原の権 吉原の権 吉原の権 吉原の権
吉原の権 吉原の権 吉原の権 吉原の権
吉原の権 吉原の権 吉原の権 吉原の権
吉原の権 吉原の権 吉原の権 吉原の権
吉原の権 吉原の権 吉原の権 吉原の権
吉原の権 吉原の権 吉原の権 吉原の権
吉原の権 吉原の権 吉原の権 吉原の権
吉原の権 吉原の権 吉原の権 吉原の権
吉原の権 吉原の権 吉原の権 吉原の権
吉原の権 吉原の権 吉原の権 吉原の権

三彦 孚石 有臺 松吹 大江丸 春鴻 乙二 申齋 護物 虚白 鳳朗 梅室

蚊 蚊
帳 柱

小毎の蚊を蚊よかき
 芒々ら蚊の出る室よとちりて
 蚊よ起るは魚鱗や孫勤
 應せし所を薄く蚊の喰む位
 於田へ出てんこり蚊の喰む夕
 本を齧るを齧るや蚊
 人の居あけの蚊の喰む夕
 蚊よらや風よ崩る物あ
 蚊柱や月よ向人もほま
 身飛らよもあき謝り四隅
 夕ま蚊情く蚊帳のりし
 蚊帳を虫よんる古くてる

葛三 巢兆 乙二 一桃 茶徑 丈甫 左之 孚石 里月 蓼太 千影 日人

五廿六

借くまの蚊をさす
 子廻り子釣き月よ蚊帳
 軒うたも廣きらんや附の中
 降出らるる蚊を蚊帳
 釣初ら蚊帳よ一夜を蚊
 松風の吹通る蚊の月
 謝りして薄く蚊の喰む
 釣初らこも蚊の喰む蚊
 首字や字よわけてる蚊
 似る蚊の喰む蚊の喰む
 蚊の喰む蚊の喰む蚊の
 四角よ蚊一夜もつら

丹後

八朗 一葉 松竹 万里 挑吏 二九 吉齋 確月 女 芳竹 一桃 九宵

蚊遺火

翌日の夜中燭はくらくと思ひや
夕月を添めて燭を釣す如か
そらくと影無うつゝ蚊帳外
燭の香は清きしやう舟の研
故水釣まゝ一宮出法平月の歌
子音くさる月のさくら燭のうら
蚊まきまゝてそよみ音のまを伝居即
蚊まきまゝ子標おとまゝを代はる
燭はあのかを伝居即蚊まきまゝ
禅心乃故まきまゝに揮う如
明をこけし馬子蚊まきまゝ
燭まきまゝを燃る蚊まきのまを

子子

波文
里川
玉岱
北亭
左之
青蘿
三千彦
長翠

七廿

燭のわらわらかゝるや海人のそら
蚊まきまゝを燃る蚊まきのまを
一まゝ蚊まきまゝを月杵
川舟の泊るをええる蚊まき
袴着る客のまを伝居即蚊まき
等まきまゝも蚊まきの飛をうか
日の下るを蚊まきまゝを伝居
清きぬを思ひあゝも蚊まき焚
社名よ伝居一宮出法平月の歌
燭まきまゝを燃る蚊まきのまを
故まきまゝを燃る蚊まきのまを
燭まきまゝを燃る蚊まきのまを

梅間
八朗
孤村
素雀
志丈
孚石
鉄夫
春嶺
千菟苑
芦文

螢 蛸

忘るもつらいつらゝる 蛸牛
つらげうもつらもつら 蛸牛
柴枯らけ 蛸牛
蛸牛 已らもつらもつら 蛸牛
わく病もつらもつら 蛸牛
蛸牛 蛸牛 蛸牛
夜を 蛸牛 蛸牛
蛸牛 蛸牛 蛸牛
蛸牛 蛸牛 蛸牛
蛸牛 蛸牛 蛸牛
蛸牛 蛸牛 蛸牛

秋臺 菊泉 好雨 省古 景山 確嶺 春鴻 臥鵬 確嶺 蘭更 三彦

飛堂 命 美
身子の 飛堂
推堂 飛堂
近年の 飛堂
日 飛堂
子 飛堂
その 飛堂

長翠 可都重 巢氷 成美 桐栖 篤老 梅室 大梅 百樗 自光 孤村

白くとも思ふれも何と居るわが
 世の葉子通は学ん先か取
 杉れまのくも中学のまきて
 川風の形も飛りほくもか
 誰道ふく学ん子居りた
 学道ふく思ひはる一室か橋
 学道中子本まあかぬ一室垣
 一衣二衣たつてく一室か
 月さくも学んのもあか学か南
 学よりも本よりも近の学か
 送るまて居るれも何の学か
 学んよ流る星を綾渌川

静雨 素霍 志丈 孚石 鉄夫 春嶺 千捨丸 叢鷺 孤星 芦文 梅木 麓水

玄三十一

人の起りて遠くはるく学ん取
 学んて度色は出あり子の月
 月さくも学んのもあか学か南
 ねくけり中道まはあか飛りた
 月さくも学んのもあか学か南
 見ぬまは学ん飛あり学ん寺
 学ん飛や水のくまて近にか
 学んり外まなあま在雨か
 人もけり学んまよめ学んか
 余年をくぬ地はあか学か形
 川上もあかぬ海も学ん飛りた
 養も学んれのとくも入学

梅守 泊舟 涼湖 清湖 儿明 千秋女 市山 嘯月 好雨 蕉素 錦八 南楚

菰粽

粽結ぶも牛の角を煮るも
人をも何れも煮るも
結ぶも煮るも煮るも煮るも
煮るも煮るも煮るも煮るも
煮るも煮るも煮るも煮るも
煮るも煮るも煮るも煮るも
煮るも煮るも煮るも煮るも
煮るも煮るも煮るも煮るも

梅室 鶏周 一夢 易足 半山 長莊 越後 如交 茶靜 碓嶺 長翠

笹粽

笹粽は、子外、道中、中、菰粽
海子、中、男の、角、煮るも
煮るも煮るも煮るも煮るも
煮るも煮るも煮るも煮るも
煮るも煮るも煮るも煮るも
煮るも煮るも煮るも煮るも
煮るも煮るも煮るも煮るも
煮るも煮るも煮るも煮るも

武口 蓼太 変二 葛三 乙二 連志 易足 雨聽 半山 春鴻 關更 三千彦

角粽

角粽は、子外、道中、中、笹粽
海子、中、男の、角、煮るも
煮るも煮るも煮るも煮るも
煮るも煮るも煮るも煮るも
煮るも煮るも煮るも煮るも
煮るも煮るも煮るも煮るも
煮るも煮るも煮るも煮るも
煮るも煮るも煮るも煮るも

武口 蓼太 変二 葛三 乙二 連志 易足 雨聽 半山 春鴻 關更 三千彦

帷子や風よるをさるる舟のうへ
 帷子の枝乃りりや 白根山
 帷子よ曉れをさるる舟のうへ
 うららるる陽田の夜風いさるるも
 帷子の雙のさぬをさるる舟のうへ
 かへりりるるさるる舟のうへ
 帷子や院の大ユ乃 藤原
 六條中 日のちるる舟のうへ
 かへりりるるさるる舟のうへ
 帷子の月乃も 于に中 藤原
 望みの日もあふるる舟のうへ

乙二 嵐外 申齋 鳥湖 花江 全 竹翁 多代女 碓嶺 茅丸 千花紀

夏羽織 辻花

競馬 印地打 競駢 扇
 かみ川をさるる舟のうへ
 橋渉をさるる舟のうへ
 又ぬえよ 斎者 遠思 競馬
 幣さるる舟のうへ
 そののさるる舟のうへ
 月あふるる舟のうへ
 古々中 舟のうへ
 今起るる舟のうへ
 異舟の伏見をさるる舟のうへ
 扇さるる舟のうへ

半嶺 九霄 碓嶺 巢兆 由誓 碓嶺 乙良 半山 以吉 左之舟 闌更 春鴻

團扇

降るる入齒せし日扇と
かきしり其船宿の扇と
かあつて移さるる扇と
扇扇をひあつても美し
眼にあつて山見ても扇
舟宿の扇と
道連の扇と
人の扇と
吹もせぬ風をぬく扇
儉校の書ありし扇

可磨
茶静
素霍
啄秋
方舟
三千彦
護物
茶静
孚石
儿明
あつた

日傘

五月雨

お新を人よもかき日傘
片所を出ぬも日傘
神垣平様も日傘
斎神よ人も日傘
雨の日は日傘
持つる日傘
五月雨の日傘
飯を食ふ日傘
源川の墓原の日傘
五月雨の日傘

静雨
佳風
千隣
三桂
啄秋
茶徑
不仙
白雄
保吉
三千彦

形魚の二葉よりけつ入木の雨
 晴るそよあふあふも中へ雨のや
 入梅早く山花をみせぬをさう
 焚火の火のけりかたれを燗入るか
 去るよりの二番子とや燗入能
 裏寝中 之舞の鼻をくまをせ
 るよりの二番子とや燗入能
 三つよりの二番子とや燗入能
 ありあつらふ降しむつらん席うる
 きのうらうたやむらむらと席うる
 西のうらうたやむらむらと席うる
 淋れぬ常きも ぬれぬ常きも

連志
 葛古
 苜丸
 白雄
 白光
 易足
 左之
 文王
 字石
 連志
 碓身
 碓身

辰四上

早苗取
 早苗舟
 御田植
 苗植

大粒よりあつらふや 席うる
 又月百の夜より あり席うる
 藤よりあつらふ者 あり席うる
 又よりあつらふ者 あり席うる
 苗取中 田舎の傍り あり席うる
 ありあつらふ者 あり席うる
 神鏡より山田の早苗より あり席うる
 ありあつらふ者 あり席うる
 宇治の人いさむらも あり席うる
 神の田の日のあつらふ者 あり席うる
 ありあつらふ者 あり席うる
 苗植よりあつらふ者 あり席うる

松翁
 尚古
 乙良
 碓嶺
 三千彦
 連志
 三千彦
 兼兆
 可厚
 鳳石
 茶静

田植
米沢

骨折りやふらふらのき田植の
六月はあめあめと植る田面
植るもく飯くよ小田はあつは
道中一糸のきく田植の
雪のみの身もあつは田植
と年ふらふらとあつは田植
植るもく一百の倍の田の
うきおの雨はあつは田植
植る田子田面あつは
世の業もあつは田植
と村も夜明けのき田植
むらむらとあつは田植

葛三
長翠
巢兆
椿堂
雉啄
碩布
者吾
卓池
孤村
素霍
鉄夫
清湖

田を植る風は物もあつは
人のきくはあつは田植
陸のきくはあつは田植
高砂の松もあつは田植
あまきのかつはあつは田植
植るもくはあつは田植
神風のきくはあつは田植
植るもくはあつは田植
望日植る田もあつは田植
之日月もあつは田植
田植のきくはあつは田植
年暮のきくはあつは田植

儿明
千古
松吹
芦文
梅木
麓水
泊舟
蕉素
碓鳥
千秋女
市山

安横村越中名所の田植時
 作垣子向うへ並ふ田うも
 けり種へも田うつる燈
 之圃をさけけりぬむ田植
 ぬくまをぬくのそぬ田植
 飯時中あも田うも人乃
 娘さるぬくぬく田植
 物さるぬくぬくのそぬ田植
 月影のさるぬくぬくのそぬ田植
 梅さるぬくのそぬ田植
 梅さるぬくのそぬ田植

叢鶯 錦八 三柱 田文 芥翠 五山 挹芝 碓月女 志徳 三民 開鳥 梅窓

早い女

了らぬめりなまも伏屋の
 早い女は薄き衣の舞あり
 濡より衣を潤し桂女は
 早い女はくくぬくぬくのそぬ田植

田植唄

田植唄さるぬくのそぬ田植
 田植唄さるぬくのそぬ田植
 田植唄さるぬくのそぬ田植
 田植唄さるぬくのそぬ田植
 田植唄さるぬくのそぬ田植
 田植唄さるぬくのそぬ田植
 田植唄さるぬくのそぬ田植
 田植唄さるぬくのそぬ田植
 田植唄さるぬくのそぬ田植
 田植唄さるぬくのそぬ田植

捨苗

捨苗田中の苗入り這入道

唄

護物 碩布 柳玖 鳳石 真橘 長翠 春嶺 千松苑 亀丈 好雨 柳外 白雄

青田

緑そののしるしを吹青田の
務遠をとりあがり、唐の茶田が
為りの墨をとり下り、茶田の
入海に青田の端く茶をけり
馬の毛をとり、茶田をとり
用のあいなをとり、茶田を
更安の月の出を、唐の茶田が
万代の茶をとり、茶田を
とり、茶田をとり、茶田を
とり、茶田をとり、茶田を
とり、茶田をとり、茶田を
とり、茶田をとり、茶田を

三彦
茶静
全
芳田
涼湖
千古
老霍
好雨
梅野
素好
松嶺
秋臺

名四四

田草取

長えし、越の流し、茶田の
そのえの茶中、吹り、松の
向子、紙ひ、けぬ、茶田の
祝、茶田の上、茶田の
お、茶田の、茶田の
と、茶田の、茶田の
栗、茶田の、茶田の
山里の、茶田の、茶田の
茶田の、茶田の、茶田の
茶田の、茶田の、茶田の
茶田の、茶田の、茶田の
茶田の、茶田の、茶田の

一鼻
蝶夢
志丈
孚石
桐居
吐山
左
乙二
荷乙
静雨
半嶺
松翁

菽植

栗蒔

黍蒔

橘

此橘よりさきぬきありて為る
此橘より日の娘と名をけり
此橘より日の子と名をけり
此橘より日の子と名をけり
此橘より日の子と名をけり
此橘より日の子と名をけり
此橘より日の子と名をけり
此橘より日の子と名をけり
此橘より日の子と名をけり
此橘より日の子と名をけり

茅九
麓水
荷子
長准
王盛
白雄
三平彦
保吉
双湖
青史
連志
三千彦

手鞠の花

青山椒

柚花

手鞠の花はさきぬきありて為る
青山椒はさきぬきありて為る
柚花はさきぬきありて為る
手鞠の花はさきぬきありて為る
青山椒はさきぬきありて為る
柚花はさきぬきありて為る
手鞠の花はさきぬきありて為る
青山椒はさきぬきありて為る
柚花はさきぬきありて為る
手鞠の花はさきぬきありて為る

合歡花

合歡花はさきぬきありて為る
合歡花はさきぬきありて為る
合歡花はさきぬきありて為る
合歡花はさきぬきありて為る
合歡花はさきぬきありて為る
合歡花はさきぬきありて為る
合歡花はさきぬきありて為る
合歡花はさきぬきありて為る
合歡花はさきぬきありて為る
合歡花はさきぬきありて為る

九宵
東鼻
半嶺
蓼太
士朗
葛三
升六
奇淵
志丈
三平彦

岸や水の中あゝささの岸
 風形を岸のささあう水あ形
 藻巾夜明の月の玉ささ
 藻乃ささあう子孫け度
 藻巾岸のあう影ささ
 何やを岸あけの藻外
 後引まを岸ささあう藻
 ささあう日あうささあう
 象河 藻あうささあう
 川骨 片照巾川骨あう中合葉
 河骨巾城あうけ極の藻あう
 河骨巾ささあう根ささあう上

宇石 翠蓋 連志 可布 宇聲 三平彦 文崖 烏夕 碓嶺 長翠 茶静 麓水

川骨の一二とささあう
 筋あさうささあうささあう
 草葉やうささあう池の形
 百合もささあうの次女あうり
 うささあうささあうささあう
 以形ささあうささあうささあう
 温泉の非れ鑑ささあうささあう
 筋のささあうささあうささあう
 作ささあうささあうささあう
 蒼ささあうささあうささあう
 百合あうささあうささあう
 百人あう山ささあうささあう

梅曉 卜早 連志 蘭更 三平彦 易足 宇南 東鼻 挑仙 杵臼 玉岱 碓嶺

蕁菜
 百合花

石菖

石菖子登飛了つるおろろか
石菖中峠子つる油うら
石菖おれはあつらふひふ
なきまや其子の根も存る
名葉のなまもまけりつらり
摘むを菖とつらり紅の茶
思へ程咲くぬ物あり紅の茶
海つらもおれつらあり紅の茶
赤もまも成るあり赤瓜
酸漿のしらる宿もあつらり
かきまののちる宿もあつらり
かきまのちる宿もあつらり

儿董

茶静

碓嶺

護物

聞鳥

雉啄

三桂

真沙美

秋堆

乙二

樗堂

五十二

紅の花

夏菊

糸瓜花
酸漿花

ユキシメ
虎耳草

早松草

瓜の花

初水鶏

かきまの世まじり出ぬ世まじり
かきまの世まじり降けきり
かきまの世まじり月もあつらり
葛の根は白けりせむ虎耳草
一志まじり色まじりのうまのり
たのまじり色まじりの味まじり
瓜取中とる色かろあれ糸出
赤はけり隣りまじり瓜の糸
咲つらり恒まじり力や瓜の糸
何れまじり色まじりの瓜の糸
唐の瓜もあつらりまじり
そののうまもあつらりまじり

松翁

九霄

桐居

静雨

孤星

半嶺

升六

碓月女

半嶺

九霄

かきま

三千彦

鹿子

危あややの暮宿り、城へ登りて山
鈴の音の又、津くまひり、鹿子か
飛たう、おきあつて、鹿子か
已、歌ふ、鹿子か、鹿子か
鹿子か、歌のね、えぬ、鹿子か
祝と子の、うら、まはる、鹿子か

一耕
三千彦
涼湖

儿明
確嶺
護物

火串

曉いち、もえ入、火串、うら
火串、うら、火串、うら、火串、うら
火串、うら、火串、うら、火串、うら
火串、うら、火串、うら、火串、うら
火串、うら、火串、うら、火串、うら

關更
長翠

錦水女
可布
茶靜

照射

湯新、湯新、湯新、湯新、湯新、湯新
一、湯新、湯新、湯新、湯新、湯新、湯新
池の夜、湯新、湯新、湯新、湯新、湯新
湯新、湯新、湯新、湯新、湯新、湯新
湯新、湯新、湯新、湯新、湯新、湯新
湯新、湯新、湯新、湯新、湯新、湯新
湯新、湯新、湯新、湯新、湯新、湯新
湯新、湯新、湯新、湯新、湯新、湯新
湯新、湯新、湯新、湯新、湯新、湯新
湯新、湯新、湯新、湯新、湯新、湯新

旬光
多代女
史千
確嶺
保吉
長翠
錦水女
連志
保吉
三千彦
成美
樗堂

夏山

夏山、夏山、夏山、夏山、夏山、夏山
夏山、夏山、夏山、夏山、夏山、夏山
夏山、夏山、夏山、夏山、夏山、夏山
夏山、夏山、夏山、夏山、夏山、夏山
夏山、夏山、夏山、夏山、夏山、夏山
夏山、夏山、夏山、夏山、夏山、夏山
夏山、夏山、夏山、夏山、夏山、夏山
夏山、夏山、夏山、夏山、夏山、夏山
夏山、夏山、夏山、夏山、夏山、夏山
夏山、夏山、夏山、夏山、夏山、夏山
夏山、夏山、夏山、夏山、夏山、夏山

樗堂
成美
三千彦
保吉
連志
錦水女
長翠
保吉
史千
確嶺
多代女
旬光

祇園會

祇園會の日の晴るる名えたり
祇園會やは夜の氣色なり
祇園會は牛子遊者かたり
祇園會は人の肩越り人かたり
夏の日の名は何なりかたり
田よもよもよの日新なり
炎天や中夜怖るる海なる鐵
日盛や馬本ものる海舟
日盛や西もひりか佐郡
日さすや海なるもももも
暑き日は心重き平なり

一聯二句

斗筲 南楚 自若 確嶺 一具 左之 茶静 静雨 半嶺 茶徑 保吉

五十八

暑き佛のあまき響あたり
暑き佛のうけを踏むる
暑きも響くも響くも響くも
自鳥枯子まの暑や草の露
暑人のあまき響くも響くも
人の欲求の暑く思ひたり
一響くも響くも響くも響くも
暑き佛のあまき響あたり
暑き佛のうけを踏むる
暑きも響くも響くも響くも
暑き佛のあまき響あたり
暑き佛のうけを踏むる
暑きも響くも響くも響くも

長翠 三彦 碩布 一蕙 伯夫 千菟 里月女 千春 涼湖

土用

暑きり八柳のふもあふけり
そのまらうころこま着の暑きり
高瀬のなまええり。暑きり那
塩瀬のなまええり。暑きり那
あけけを踏まう。暑きり山花が
一まらう。暑きり。暑きり
一日二日暑きり。暑きり
暑きり夜のなまええり。暑きり
暑きり。暑きり。暑きり。暑きり
眼のなまええり。暑きり。暑きり
老僧の銀杏をまらう。暑きり

松吹
松葉女
川帶
乙良
方舟
一耕
菊泉
易足
白堂
確月女
一翠
春鴻

土用

暑きり八柳のふもあふけり
そのまらうころこま着の暑きり
高瀬のなまええり。暑きり那
塩瀬のなまええり。暑きり那
あけけを踏まう。暑きり山花が
一まらう。暑きり。暑きり
一日二日暑きり。暑きり
暑きり夜のなまええり。暑きり
暑きり。暑きり。暑きり。暑きり
眼のなまええり。暑きり。暑きり
老僧の銀杏をまらう。暑きり

保吉
舞千
茶徑
其兆
介二
花江
茂什
谷雀
五調
柳居
三千彦
斗筵

虫

暑きり八柳のふもあふけり
そのまらうころこま着の暑きり
高瀬のなまええり。暑きり那
塩瀬のなまええり。暑きり那
あけけを踏まう。暑きり山花が
一まらう。暑きり。暑きり
一日二日暑きり。暑きり
暑きり夜のなまええり。暑きり
暑きり。暑きり。暑きり。暑きり
眼のなまええり。暑きり。暑きり
老僧の銀杏をまらう。暑きり

保吉
舞千
茶徑
其兆
介二
花江
茂什
谷雀
五調
柳居
三千彦
斗筵

拾遺のふも春のさきくも月
 宵の明いあもあつて夏月
 娘の珠敷も月立ぬる月
 か茶川のあつてこ人の月
 新あつて中へあつて月
 御海子わねるも夏月
 星乃井をえつて月
 友の月影も月
 友の月影も月
 宇の月影も月
 遺寺の木立も月
 夕の月影も月

蕉雨
 三津人
 一蕙
 志徳
 茶静
 孤村
 素雀
 志文
 宇石
 鉄夫
 春嶺

夕の月影も月
 海山をえつて月
 友の上も月
 友の上も月
 友の上も月
 友の上も月
 友の上も月
 友の上も月
 友の上も月
 友の上も月
 友の上も月
 友の上も月

乙人
 千秋女
 市山
 霞女
 里月女
 凉湖
 清湖
 千古
 梅守
 芦文
 孤星

舟場を過ぎる人あり夜の月
 伍橋のかつる名所や夜の月
 網投りて大まきくきある夜の月
 ぬきしれ葛塚もいま夜の月
 けりしやむねを思ふ夜の月
 出づるや輝の上や夜の月
 鼻先の上氣を養ふや夜の月
 舟をさすもさきこひや夜の月
 ぬきまきく更なるか夜の月
 ソリ舟を中流の舟もえり夜の月
 保ちよたをさすもさきこひ夜の月
 不忍入り流るるもさきこひ夜の月

叢鶯 古狂 千巻丸 鳳石 茶徑 谷川 易足 文雄 秋水 秋鯉

六十二

月涼

さる夜のあふくさるる夜の月
 下つあけの夜を流るる夜の月
 左の月夜にけりて夜の月
 もさきこひ向ふさきこひ夜の月
 余念あくるてはるる夜の月
 世を捨て人の居あや夜の月
 峰の松竹もさきこひ夜の月
 四之軒もさきこひ夜の月
 芦子もさきこひ夜の月
 月とりの夕もさきこひ夜の月
 面もさきこひ夜の月
 樽持もさきこひ夜の月

納涼

尾村 梅野 川帶 左之右 浮石 三條 西阜 老霍 鳥醉 三彦

人先く舊窓ありて門もくみ
 門納涼下くもまろくもくも
 毎日のちね持たまもくもか
 隣もく持て保ちけり門もく
 りあやうのよみ法を建もくも
 はあやうのよみ法を建もくも
 世もくはまもくもくもくも
 とくもくもくもくもくもくも
 さくもくもくもくもくもくも
 月のもくもくもくもくもくも
 清くもくもくもくもくもくも
 あたもくもくもくもくもくも

鹿太 春嶺 麓水 清湖 鳳石 啄秋 二九 仁窓 桐居 友我 舞千 傾西

涼

月のもくもくもくもくもくも
 人の持たまもくもくもくも
 くとくもくもくもくもくも
 くとくもくもくもくもくも
 くとくもくもくもくもくも
 くとくもくもくもくもくも
 くとくもくもくもくもくも
 くとくもくもくもくもくも
 くとくもくもくもくもくも
 くとくもくもくもくもくも
 くとくもくもくもくもくも
 くとくもくもくもくもくも

南楚 碓鳥 昔丸 曉臺 三千彦 長翠 士朗 成美 一茶 狹村 靜雨 素雀

涼しき舟の夜更しとてつら
 涼しき舟の夜更しとてつら
 借しき舟の夜更しとてつら
 涼しき舟の夜更しとてつら
 涼しき舟の夜更しとてつら
 涼しき舟の夜更しとてつら
 涼しき舟の夜更しとてつら
 涼しき舟の夜更しとてつら
 涼しき舟の夜更しとてつら
 涼しき舟の夜更しとてつら

千花苑
 蕉素
 連志
 乙人
 如春
 易足
 雨紅女
 白堂
 雨聽
 五調

涼しき舟の夜更しとてつら
 涼しき舟の夜更しとてつら
 借しき舟の夜更しとてつら
 涼しき舟の夜更しとてつら
 涼しき舟の夜更しとてつら
 涼しき舟の夜更しとてつら
 涼しき舟の夜更しとてつら
 涼しき舟の夜更しとてつら
 涼しき舟の夜更しとてつら
 涼しき舟の夜更しとてつら

丹後
 步
 甫
 素
 花
 省
 一
 鳳
 北
 壽
 竹
 蒼

打水

夕立中川上いよのこぎりの中
夕立新新さけまつりゆ位存
夕立のあけ美しき煙か那
お水のちりあふちの朝
お水の中門をく隣を
お水や月さけ外に庭も
お水やぬきしきく風
お水やまきしきく一重
お水や細くさけあふる
お水や早夕暮のこわれ松
お水は遠くはるけし
お水は遠くはるけし

確月女
魚龍
蓬国
凉湖
千古
阿兮
月桂
蓬交
確嶺
葛三
第九
九霄

五
六
七

雨乞

清水

山伏の相傳いよ。清水
山葵のあけ美しき煙か那
お水のちりあふちの朝
お水の中門をく隣を
お水や月さけ外に庭も
お水やぬきしきく風
お水やまきしきく一重
お水や細くさけあふる
お水や早夕暮のこわれ松
お水は遠くはるけし
お水は遠くはるけし

柳居
三千彦
成美
乙二
日人
鳳朗
空阿
吐丈
斗筵
春幾

山はまの山をいへる清きうか
 上りももえぬ山路中清きうか
 けさきく清きうか
 立白くく月も清きうか
 清きうかの水も清きうか
 清きうかの橋も清きうか
 清きうかの山も清きうか
 清きうかの松も清きうか
 清きうかの山も清きうか
 清きうかの山も清きうか
 清きうかの山も清きうか
 清きうかの山も清きうか

北亭
 千春
 長莊
 林霞
 五什
 雨紅女
 葎苑
 如交
 川帶
 有田
 正阿

晒井

布晒

晒井 井の中をいへる清きうか
 晒井 井の中をいへる清きうか
 晒井 井の中をいへる清きうか
 晒井 井の中をいへる清きうか
 晒井 井の中をいへる清きうか
 晒井 井の中をいへる清きうか
 晒井 井の中をいへる清きうか
 晒井 井の中をいへる清きうか
 晒井 井の中をいへる清きうか
 晒井 井の中をいへる清きうか

開鳥
 古狂
 糸友
 涼窓
 確嶺
 乙二
 護物
 挹芝
 麓水
 伯夫
 謙々
 保吉

籠枕

笠まゝのくつゝと書き置ける
堂々たる師の座よせまゝの
傍を這つた新酒さびし
一筆
祝の居る中より居る人
筆月も囁くも阿まけ
意まゝぬ人のまゝかこ
まゝや毎まゝかこ
推の力を持て書源の
文源の雀もやも竹婦人
竹婦人なるも書ける
船をるまゝあて
けし

竹婦人

三彦
雨塘
連志
葛古
挹芝
梅邊
文玉
雨兮
卜早
六九

蓮

うらやまのねはるまゝの竹婦人
なも子新たる蓮とありまけり
蓮の月水盗人も出まけり
ろんせぬ蓮やさる下戸の
有体や小樽の下乃蓮乃
身の上乃之や蓮乃
蓮の香子袴もころむ
蓮おまゝのわらわら
音子ゆゑひや蓮を
蓮の花手れい系
竹事もあま教仕

尾村
長翠
三彦
葛三
成美
巢兆
龜丈
申齋
茶静

蓮の葉も花も白く
蓮の葉も花も白く
蓮の葉も花も白く
蓮の葉も花も白く
蓮の葉も花も白く
蓮の葉も花も白く
蓮の葉も花も白く
蓮の葉も花も白く
蓮の葉も花も白く
蓮の葉も花も白く

荷乙 若人 志丈 旬光 梅野 宇南 桃吏 弥天 雨紅女 川帶 尾村 以吉

白蓮

蓮浮葉

蓮立葉

蓮見

蒲の穂

白蓮のあやもきと字もさう解
蓮ふくむるのむく行きあむ下
浮葉あまの浮もあれ咲蓮
蓮の浮葉浮るありのさけ菴が
蓮の立葉首城うけつるまじ
蓮の葉いさそ 風もさう風情は
あふさう酒いさそあぬ蓮か
蓮の穂もあまの穂もさう穂もさう
蓮の穂もあまの穂もさう穂もさう
蓮の穂もあまの穂もさう穂もさう
蓮の穂もあまの穂もさう穂もさう

鳥明 長翠 鼎湖 梅山 三彦 蓬交 長翠 祖郷 芥翠 谷荏 半嶺

白粉花

夕顔

白粉のむや五尺の坪れうら
 卯一らひりもや紺屋の條も本
 夕顔やむの上あふかたつと堂
 夕顔やこのよけふは日は其後
 夕顔のむさあくの百木水車
 夕顔のむや樽もくく舟の若
 夕顔子舎さ定や一餅さか
 夕顔やりのむさあふけはうい
 夕顔やこ元をむさあふけはうい
 夕顔や家もく蓋もくも似たり
 夕顔や中ふ越さむいそま餅
 夕顔や花子冷さ一客も乃擲

静雨 蓬交 白雄 蘭更 保吉 長翠 三千彦 巢兆 應々

晝顔

夕顔子咲あふささうら 庵かあ
 夕顔や孝女のんさあさ咲
 夕顔子羽音のりりさあ後介
 夕顔やむさあふけはうい
 夕顔や入りの強さ舞の上
 夕顔や押さあふけはうい
 夕顔のりや夕顔柳のむさあ
 夕顔の朝さあふけはうい
 夕顔の夜さあふけはうい
 晝顔の浪子引さあ後持うか
 晝顔の山若さあ花かか
 晝顔の山若さあ花かか

叢 静雨 涼湖 千古 松吹 壽磨 松尾 碓鳥 長翠 應々 斗筲

釣 惹

淋々るちり事り 薄う如
袴着しる身更らる形や 釣惹
釣惹女 繪は書家とけぬ
燈はくさくさ子つら 夜中 燈の草
あつたまさく 志すり 志すらん 釣惹
燈畑の 燈は花をせしむる 木槿
燈の花をさるるをきき 燈は如
天竺の 燈はあつたまさく 花
不自由かち燈はあつたまさく 燈は
あつたまさく 燈はあつたまさく 燈は
燈はあつたまさく 燈はあつたまさく 燈は

波女 春鴻 長翠 文崖 三彦 升六 松翁 涼湖 挹芝 佳風

紫蘂の花

あつたまさく 燈はあつたまさく 燈は
あつたまさく 燈はあつたまさく 燈は
あつたまさく 燈はあつたまさく 燈は
あつたまさく 燈はあつたまさく 燈は
あつたまさく 燈はあつたまさく 燈は

確嶺 宗讚 苞竹 龜因 苜九

山牛房

あつたまさく 燈はあつたまさく 燈は
あつたまさく 燈はあつたまさく 燈は
あつたまさく 燈はあつたまさく 燈は
あつたまさく 燈はあつたまさく 燈は
あつたまさく 燈はあつたまさく 燈は

重行 苜九 桐居

青鬼灯

あつたまさく 燈はあつたまさく 燈は
あつたまさく 燈はあつたまさく 燈は
あつたまさく 燈はあつたまさく 燈は
あつたまさく 燈はあつたまさく 燈は
あつたまさく 燈はあつたまさく 燈は

兩聽 芥翠 長翠

麻外

あつたまさく 燈はあつたまさく 燈は
あつたまさく 燈はあつたまさく 燈は
あつたまさく 燈はあつたまさく 燈は
あつたまさく 燈はあつたまさく 燈は
あつたまさく 燈はあつたまさく 燈は

瓦村

櫻 麻

名のよきよ 咲もよまうぬ 櫻麻
以てふものうら 淋中 櫻麻
中もあつ 散きいん 櫻麻

夏引の糸 青 芭

夏引の糸 糸もよまうぬ 世のいと
如く相油は 糸もよまうぬ 芭
芭の糸もあつ 糸もよまうぬ 芭
月夜 糸もよまうぬ 芭
眼よえぬ 糸もよまうぬ 芭
子近く 糸もよまうぬ 芭
又通 糸もよまうぬ 芭
また糸もあつ 糸もよまうぬ 芭
青芭の糸もよまうぬ 芭

青 芦

青芦の糸もよまうぬ 芭

蓬交

可厚

桐居

確嶺

祖郷

易豆

佳風

菊泉

可月

弥天

赤蓼

芥翠

うほ草

まは草 子付はまは草 ぬ 坂山
及のまは草 子付はまは草 ぬ 坂山
うほ草 子付はまは草 ぬ 坂山

夏枯草

夏枯草 子付はまは草 ぬ 坂山
枯草 子付はまは草 ぬ 坂山

蘭の花

蘭の花 子付はまは草 ぬ 坂山
蘭の花 子付はまは草 ぬ 坂山

瓜

瓜 子付はまは草 ぬ 坂山
瓜 子付はまは草 ぬ 坂山
瓜 子付はまは草 ぬ 坂山
瓜 子付はまは草 ぬ 坂山
瓜 子付はまは草 ぬ 坂山
瓜 子付はまは草 ぬ 坂山
瓜 子付はまは草 ぬ 坂山
瓜 子付はまは草 ぬ 坂山
瓜 子付はまは草 ぬ 坂山
瓜 子付はまは草 ぬ 坂山

霞美

長翠

兀雨

長翠

静雨

柴居

啓山

重厚

長翠

三千彦

百のちの瓜の鳴きもそまじあつて
 月影さし沙瓜ちり 瓜乃り作
 任寺さし 古き男や瓜作ら
 瓜のあや 草鞋あつて 駝さつて
 子やあめん ちやあめん 冷し瓜
 年 寄るも 苦子 瓜や 瓜作
 瓜 寄るも 苦子 瓜や 瓜作
 盗ま 夫さ 瓜のさうり 瓜中
 冷し 瓜月 交あさ 戸口か
 花 咲の 足来 あや ちり 瓜
 ま け子 瓜のり 瓜 瓜
 一 盛るも 瓜 瓜 瓜

乙二 擗堂
 乙良 護物
 方舟 其兆
 儿明 古狂
 麓水 確鳥
 連志

梅 子 豆の花 角大豆 初真菜瓜
 月影さし 瓜の鳴きもそまじあつて
 任寺さし 古き男や瓜作ら
 瓜のあや 草鞋あつて 駝さつて
 子やあめん ちやあめん 冷し瓜
 年 寄るも 苦子 瓜や 瓜作
 瓜 寄るも 苦子 瓜や 瓜作
 盗ま 夫さ 瓜のさうり 瓜中
 冷し 瓜月 交あさ 戸口か
 花 咲の 足来 あや ちり 瓜
 ま け子 瓜のり 瓜 瓜
 一 盛るも 瓜 瓜 瓜

積翠 古狂 白雄 蓬文 麓水 素霍 秋堆 啟山 九宵 半嶺 護物 静雨

水飯

葛水

水の粉

心太

水飯中 蓬り只出たりその名
の飯戸 鹿島香取をふりん
る飯中 菜の油漬をて海は
葛の中 夕飯の字をきりぬり
葛の中 やうらゝる鹿島を
葛の中 梅一輪の魚も所
葛の中 戸座振角ありて中并
葛の中 中より物ありて山
水の粉 ありて鹿島つて
水の粉 鹿島の字を
水の粉 中より
心太 人にあつて

乙二 石膽 茶静 三彦 儿董 松翁 荷乙 椿州 葛三 静雨 半嶺 九霄

一夜酒

沖鱠

海月取

火取虫

唐寄をさつて世に
一夜酒 一夜の夏と
一夜酒 志望のさ
酒中 中を
沖鱠 中を
沖鱠 中を
海月取 一夜の夏と
好く 中を
油中 中を
海月と 中を
火取虫 中を
涼湖 中を

長秋 五山 挹芝 確嶺 曉臺 鳳石 竹翁 吳翠 白雄 長莊 花江 涼湖

夏籠

身延山

火取むじく遠くはよけり燃せ
竹柱く一存の籠るくくろくか
ふ籠るや法華千部の山おろし
高き7の山管柱てふふ籠る
夏籠や一子山一山のこま
ふ籠るや邪くもあふぬるの言
ふふせん 弦あふに琵琶の裏表
夏あふく慣もくろくぬるふふ
五二日傍入人もあふ 夏百日
籠の才とくくくぬるい別な百日
只公門すは籠るを法籠の籠
遠くせしきくく界を法籠

儿明
長翠
重厚
乙二
壺半
玉芝
乙二
護物
琴
老雁
白雄
保吉

夏七十八

夏書

夏百日

御被

法籠せん籠のふく籠とく二人あ
くくぬるのふく法籠く籠る
法籠くく風部くくくくくく
まふの法籠くくく法籠か
まふの法籠くくく法籠か
人まの法籠くくく法籠川
ふく青の法籠くくく法籠か
ふくまの法籠くくく法籠のま
法籠の吹とくくく法籠か
ふく籠るあふく法籠川
山籠の川籠くくく法籠か
籠るくくく法籠川

三千彦
、
、
、
萬三
武日
大梅
旬光
連志
茂什
林霞
雨聴

形代
 形代はかまほはきあてか
 形代や風も夕日も静をこころ
 形代やほくろあまの山よ入
 川社
 日よ向くまうけあまの川社
 乙二
 蕉雨
 柳 紅女
 雨 紅女
 傾 西
 不 仙
 保 吉
 步 丈
 左 春
 春 鴻
 左 乙
 乙 二
 成 青
 蕉 雨

辰七十九

夏神樂
 夏神樂の本音ささやふ神樂
 川社よ風のうきやふ神樂
 夏拂
 あまのりの有るささやふ神樂
 秋近
 秋近は静雨
 友我
 確嶺
 茶静
 陰風
 成美
 希言
 若人
 三彦
 孤村
 静雨

秋の夜更けの
 月影の如く
 思ふ人の心
 秋の夜更けの
 月影の如く
 思ふ人の心
 秋の夜更けの
 月影の如く
 思ふ人の心

素雀 志丈 欽大 斗筵 春嶺 千花苑 孤星 清湖 麓水 梅守 錦八 千隣

亥午

夏深き

一 秋の夜更けの
 月影の如く
 思ふ人の心
 秋の夜更けの
 月影の如く
 思ふ人の心
 秋の夜更けの
 月影の如く
 思ふ人の心

確月女 佳風 百丈 雨聴 雪明 蓬国 玉岱 左三平 萬三 孤濁 五調

夏盡

雜夏

なる涼くさゆるさきよの如く
 あつらぬ舟波もつをけさるる
 ともふけのむの跡もやまを
 庵の耳の漏れもれは日のと光
 うみのてりけりふさよりのほほ
 裏は流もまきまき中 瀬のつむ
 山畑中 五月にもさつぬ穂の麦
 なるるる中 夕飯とつらぬひ
 なる藤やふりりさかきさき
 浪掃のさかきありあつはわが
 雲のまきまきさかきさかき
 旅の酒を目出さるるさかき

五調
 三千彦
 祖郷
 春鴻
 三千彦
 長翠
 素檠
 一茶

名もやあつらゆるもさかき
 なるるるもさかきさかき
 清くさかきさかきさかき
 なるるる大根の花もさかき
 梅枝なるさかきさかき
 眼子つらぬさかきさかき
 さかきさかき田の娘もさかき

鹿太
 西月
 可布
 乙良
 二三
 長莊
 好雨

亥
八
十二

